

**可動式のモニターに録画機能も搭載した
気道管理用の携帯型軟性内視鏡「エアウェイマネジメントモバイルスコープ」3機種を新発売**

オリンパス株式会社（社長:竹内 康雄）は、携帯型軟性内視鏡にカメラ機能を搭載した「エアウェイマネジメントモバイルスコープ」3機種を2020年3月31日に国内で発売します。本製品は、携帯型内視鏡に上下左右に可動する3.5型モニターを搭載し、画像記録を可能にした製品で、気管チューブの留置及び確認、気道内の観察、処置を行うことを目的にしています。

今回発売する製品は、先端部外径3.1mmの細さに内径1.2mmの吸引・送液用管路を備えた「MAF-DM2」、先端部外径3.9mmで内径1.5mmの吸引・送液用管路を備えた「MAF-GM2」、さらに先端部外径5.1mmで内径2.6mmの大きな鉗子挿通用管路により吸引や送液だけでなく処置具の挿入が可能な「MAF-TM2」の3機種です。3種類のラインアップにより、外科手術時の気管挿管や、ICUでの気道観察、病棟での喀痰吸引や異物摘出など、幅広い用途で使用することができます。

本製品により、医療現場における多様な気道管理のニーズに対応していくことを目指します。



●発売の概要

販売名	発売時期
エアウェイマネジメントモバイルスコープ OLYMPUS MAF-DM2	2020年3月31日
エアウェイマネジメントモバイルスコープ OLYMPUS MAF-GM2	2020年3月31日
エアウェイマネジメントモバイルスコープ OLYMPUS MAF-TM2	2020年3月31日

●主な特長

1. 完全スタンドアロンタイプ
2. 3.5型モニターを搭載
3. 静止画／動画の記録・管理も可能



オリンパスは2019年10月12日に創立100周年を迎えました。これまで当社の発展を支えてくださったお客さまをはじめ、ステークホルダーの皆さまに心より感謝申し上げます。これからも世界の
人々の健康と安心、心の豊かさの実現を通して、社会に貢献してまいります。

●市場導入の背景

当社は気管支鏡、喉頭鏡の開発や販売を通じて、呼吸器科、麻酔科、救急部門などの様々なご要望に応えてきました。これらの臨床科においては、気管内挿管や異物摘出、気管支肺胞洗浄、喀痰吸引、気道内出血などの気道内の観察・処置が実施されています。また、病院内の使用現場も手術室、病棟、ICU、救急部門など多岐にわたり、これらの場所に手軽に持ち運び使用できる携帯型の内視鏡として、「LF PortaView シリーズ」を 1998 年に発売しています。さらに携帯型内視鏡に 2.5 型モニターを搭載し、複数の医療スタッフによる液晶モニターでの同時観察や画像記録が可能な「MAF-GM/MAF-TM」を 2009 年に発売しました。今回、胸部外科手術時における挿管操作に対応する細径タイプを加えた 3 機種をラインアップし、さまざまな医療現場での気道管理に貢献します。

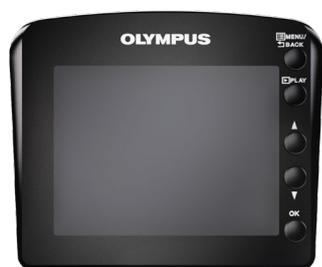
●主な特長の詳細

1. 完全スタンドアロンタイプ

スコープに「モニター」「LED 光源」「バッテリー」を搭載し、さらに「録画機能」も備えた完全スタンドアロンタイプの製品です。観察時に周辺機器やケーブルが不要なので、気道内の観察・処置を行う手術室や病棟、ICU、救急部門など、さまざまな場所に持ち運び使用することができます。

2. 3.5 型モニターを搭載

スコープに 3.5 型モニターを搭載しているため、観察と手元操作が同じ視野の中で行えます。また、モニター部分は水平方向に左右各 90 度、垂直方向に 120 度可動するため、術者の体勢に合わせた角度の調整や、複数の医療スタッフとの同時観察も可能です。



3. 静止画／動画の記録・管理も可能

手術前後の気道の状態や気道内出血点、気管チューブの留置位置などを、静止画や動画で SD メモリーカードに記録することができます。

本リリースに掲載されている社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。